

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 5 年 6 月 14 日現在

機関番号：23901

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2018～2022

課題番号：18H00644

研究課題名(和文) 十七世紀尾張藩における 文化としての武 に関する諸藩対照研究

研究課題名(英文) Depictions of seventeenth-century warrior house identity :A Case Study from Owari Domain

研究代表者

中根 千絵 (NAKANE, Chie)

愛知県立大学・日本文化学部・教授

研究者番号：80326131

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 11,100,000円

研究成果の概要(和文)：歴史学・文学・美術史学など、様々な視点から屏風・絵巻形式で数多く製作された合戦図(展覧会出陳作品を中心とする)の読み解きをしてきたが、その延長上で17世紀の合戦図の特徴を多角的に明らかにするための方法論を開拓することができた。

また、永青文庫の奈良絵本『太平記』は、これまで収集したものの中でもっとも絵の多い本であるが、この本の絵を調査した成果をフルカラーの絵と解説を付して出版した。この本は、江戸時代の諸藩の文物に大きな影響を与えた『太平記』と関連の軍記物語の絵との関係性を今後明らかにしていくための基礎的な資料である。

研究成果の学術的意義や社会的意義

これまで、中世文学と武的価値観との関係といえば、主に実際の戦いに関わる作品を通して研究が進められてきた。しかし、その時代が終わったあとに継承され、新たに創造された「武」を表象する認識や文物については、十分に把握されたとはいえない状況にある。そこで、本研究では「文化としての武」という観点から、中世の「武」と関わってきた物語や品物、認識等が、近世的な価値体系の中でどのように再編されていったのかを、中世から近世への過渡期となる17世紀の政治的・文化的諸状況を踏まえつつ解き明かしていった。地域や社会的立場を異にする藩を取りあげ、合戦図の実態を比較検討する事例研究を通して、新たな分析軸を提示した。

研究成果の概要(英文)： We have been reading and interpreting numerous war paintings in the form of folding screens and picture scrolls (mainly works exhibited at exhibitions) from various perspectives, including history, literature, and art history, and as an extension of these studies, we were able to develop a methodology for clarifying the characteristics of 17th century war paintings from multiple perspectives.

In addition, the Nara ehon "Taiheiki" from the Eiseibunko collection, the most illustrated book in the collection to date, was published with full-color drawings and commentary as the result of a survey of the drawings in this book. This book is a fundamental resource for future clarification of the relationship between the pictures in "Taiheiki" and related military tales, which had a great influence on the literature of various clans in the Edo period.

研究分野：日本説話文学

キーワード：文化としての武 17世紀

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

これまで、中世文学といえば、中世の視点から中世の時代背景、文脈に即した形で、研究がなされ、また、中世文学と武の価値観との関係といえば、主に実際の戦いに関わる作品を通して研究が進められてきた。しかし、その時代が終わったあとに継承され、新たに創造された武を表象する認識や文物については、十分に把握されたとは言い難い状況にある。中世文学が近世において新たな意味づけがなされ、収集されていく以上、中世文学は新たに近世の時代背景、文脈に即して読み直さねばならない。17世紀は幕藩体制の確立期であり、政治的な動向を踏まえずして文化的動向をおさえることができない。各藩がかかえていた個別的な事情を踏まえて、各藩における文化的動向を、作品のジャンルに縛られることなく、包括的に把握するような議論はまだ進んでいない。しかし、それこそが今後重要な観点である。

2. 研究の目的

本研究では、特に、中世的な武の実践の時代から近世の平和な時代へ移行する17世紀に焦点をあてて、文化的な武の在り方を考えたい。近世大名における中世文学の価値や意味を再発見すること、また、平和な時代の武の文物の役割を明らかにすること、実践する武から文化としての武への再編を問うことで、従来の文学史のかたちを問い直し、これまで個々のジャンルに捉われがちであった分析を歴史、文化、地域の三点から総合的に定位し直すことを目指したい。そこで、本研究では「文化としての武」という観点を打ち出し、そうした観点から、中世の武と関わってきた物語や品物、認識等が、近世的な価値体系の中でどのように再編されていったのかを、中世から近世への過渡期となる17世紀の政治的・文化的諸状況を踏まえてつづき明かしていく。分析対象としては、尾張藩初代藩主義直の集めた物語や文物がいかに関わって機能し得たのかを核として、地域や社会的立場を異にする三つの藩を取りあげ、その実態を比較検討する事例研究を通して、将来的な全国規模の分析に取り組む為の分析軸と評価軸を提示することを目的とする。

3. 研究の方法

(1) 各藩の書籍目録の調査と武に関わる蔵書群の形成過程の解明

中根は尾張藩の書籍、龍澤は尾張藩の道具類、小助川は松山藩と宇和島藩、鈴木は萩藩を主対象として、各藩で作成された書籍目録を調査し、武を表現・表象する物語・絵本絵巻・故実書・兵法書等が収集、蓄積されていく過程を把握する。上記四藩の他にも、関連諸藩の状況も視野に収めてこれを行う。

(2) 新出または重要資料の紹介

調査の過程で見出された新出資料・重要資料については、所蔵機関に配慮しつつ翻刻やテーマ別目録等の形で紹介する。

(3) 文化としての武を構成する価値体系の解明

中世以来の、実践するための武という価値観から脱却し、平和の時代を志向する17世紀の価値観に即応するように再編されていく様相を、物語・絵本絵巻・故実書等の内容と扱われ方の両面から分析し、把握する。

(4) シンポジウムの開催等による研究成果の社会還元

情報収集と成果の社会還元のため、国内シンポジウムや国際学会での発表を行い、成果の社会還元を図る。その内容は翌年度に書籍の形で刊行する。

資料調査

写真撮影、紙焼き写真等での収集に取り組む。また、目録類の点検を並行して行う。

* 全ての藩において以下のものを中心に分析。

家譜・系図

戦国期について書いた覚書

兵法書の近世的変容

蔵書・調度品等の目録

これに、軍記・お伽草子・芸能とそれらの絵画資料、調度品などを加えて、その伝来状況と扱われ方について分析する。

資料の分析と調査した情報の整理・蓄積

書誌情報、奥書・識語の内容を中心に、パソコンに蓄積。デジタルカメラで撮影したもの。随時、内容分析を進める。

17世紀の軍記物語絵画表現の研究の第一人者である連携協力者、出口久徳（「寛文・延宝期、軍記物語版本の挿絵の表現をめぐる」『いくさと物語の中世』）の協力を得て、分析をさらに進める。

4. 研究成果

(1) 第1回研究集会(日時:2018年3月24日(日)13時~17時 会場:愛媛大学サテライトオフィス多目的室4Pier Carlo Tommasi (トンマージ・ピエールカルロ Ph.D. Candidate, Ca' Foscari University of Venice)「戦国武士の「覚書」に於ける自己言及とその諸相 玉木吉保『身自鏡』を一例に」)を基盤に発展させた「覚書」をテーマとする研究を2021年8月27日(金)EAJS学会にて、分担者の鈴木彰、小助川元太と同パネルで発表した。申請者の発表タイトルは下記のものである。「覚書」が刀剣伝承、漢故事、兵法に関する軍記物語の引用、書き手の問題など、いくさ物語に近い距離をもっていることの問題点を提起した。詳しくは、下記に述べる。

The Art of Retelling the Battles of Old: A Case Study from Owari Domain

応募者中根の研究発表「The Art of Retelling the Battles of Old: A Case Study from Owari Domain」では、尾張藩が徳川家の子息を藩主としてきたことによる覚書の特異性が浮かびあがったと共に、戦の記憶が17世紀から18世紀に移行する段階でそれまで秘匿されてきた聞き語りや文字化されており、尾張藩の覚書が他の戦争直後の覚書とは異なる性格になっていることが明らかとなった。一方で、刀剣伝承については、各藩共通して採り上げられており、戦の描き方においても、中世の軍記物語の表現を引用するなどの共通点が見られた。また、大きな歴史の物語では、採り上げられないような足軽たちの姿も克明に描かれていることも覚書の一つの特徴と考えられる。その他、「覚書」の聞き手として小姓の存在が重要な役割を果たしていることも注目すべき事柄である。

(2) シンポジウム:「中世から戦国の合戦図をめぐる」(2019年8月24日(土)13時30分~16時 会場:名古屋市徳川美術館 講堂)徳川美術館の「合戦図」展と連動してシンポジウムを行った。歴史学・文学・美術史学など、様々な視点から屏風・絵巻形式で数多く製作された合戦図(展覧会出陳作品を中心とする)の読み解きをしたが、その延長上で、勉誠社より2021年度に同タイトルの本を出版することで、17世紀の合戦図の特徴を多角的に明らかにした。

内容 徳川美術館の「合戦図」展と連動し、史学・国文学・美術史学など、様々な視点から屏風・絵巻形式で数多く製作された合戦図(展覧会出陳作品を中心とする)を読み解く。

主催 基盤研究(B)(一般)平成30年度~平成34年度課題番号18H00644「十七世紀尾張藩における<文化としての武>に関する諸藩対照研究」

協力 徳川美術館・名古屋市蓬左文庫

日時 8月24日(土)13時30分から16時 会場 徳川美術館 講堂

登壇者

- ・愛知県立大学教授 中根千絵 趣旨説明
- ・徳川美術館 薄田大輔氏 (美学美術史の立場から展覧会の趣旨)
- ・徳川美術館 原史彦氏 (歴史学の立場から関ヶ原合戦絵巻の作品紹介)
- ・立教大学兼任講師 出口久徳氏「源平合戦イメージの展開」
- ・防衛大学教授 井上泰至氏 「戦国合戦のイメージ形成 軍記類と絵画」

『合戦図 描かれた 武』目次 序言 中根千絵

図録編 合戦絵巻の登場 中世合戦絵巻

- 1 国宝 平治物語絵巻 六波羅行幸巻 一巻（東京国立博物館蔵）
- 2 平治物語絵巻 三条殿夜討巻 一巻（ボストン美術館蔵）
- 3 重要文化財 前九年合戦絵巻 二巻（国立歴史民俗博物館蔵）
- 4 国宝 蒙古襲来絵詞 二巻（宮内庁三の丸尚蔵館蔵）
- 5 重要文化財 後三年合戦絵巻 三巻の内、中巻 詞 持明院保脩 絵 飛騨守惟久（東京国立博物館蔵）
- 6 重要文化財 結城合戦絵詞 一巻（国立歴史民俗博物館蔵）

古典的合戦絵巻

- 7 平家物語絵巻 三十六巻の内、巻第十一中 土佐左助（林原美術館蔵）
- 8 埼玉県指定文化財 太平記絵巻 五巻の内、巻七（埼玉県立歴史と民俗の博物館蔵）
- 9 奈良絵本 源平盛衰記 五十冊の内、第三十六冊・第四十三冊（海の見える杜美術館蔵）
- 10 平家物語図扇面 六十面（徳川美術館蔵）
- 11 平家物語・平治物語扇面画帖 十四面（立教大学図書館蔵）
- 12 保元平治物語絵扇面 六面（石橋財団アーティゾン美術館蔵）
- 13 堀川夜討絵巻 二巻の内、下巻 住吉如慶（東京国立博物館蔵）
- 14 堀川夜討絵巻 二巻の内、下巻 狩野益信（神奈川県立歴史博物館蔵）

戦国合戦絵巻

- 15 重要文化財 東照社縁起絵巻 五巻の内、巻二 詞 近衛信尋ほか 絵 狩野探幽（日光東照宮蔵）
- 16 関ヶ原合戦絵巻 模本 二巻 長谷川雪旦（大東急記念文庫蔵）
- 17 関ヶ原合戦絵巻 二巻 鳥文斎栄之（奈良県立美術館蔵）

大画面合戦図の展開 古典的合戦図屏風

- 18 安徳天皇縁起絵図 八幅 伝土佐光信（赤間神宮蔵）
- 19 一の谷合戦図屏風 六曲一隻（智積院蔵）
- 20 保元平治合戦図屏風 六曲一双 伝土佐光信（メトロポリタン美術館蔵）
- 21 高館物語図屏風 二曲一隻（大英博物館蔵）
- 22 保元合戦図屏風 六曲一双（岡山県立美術館蔵）
- 23 一の谷・屋島合戦図屏風 六曲一双（今治市河野美術館蔵）
- 24 埼玉県指定文化財一の谷合戦図屏風六曲一双 海北友雪（埼玉県立歴史と民俗の博物館蔵）
- 25 一の谷合戦・二度之懸図屏風 六曲一隻 狩野探幽（静岡県立美術館蔵）
- 26 太平記図屏風 六曲一双 住吉弘貫（ライデン国立民族学博物館蔵）

戦国合戦図屏風

- 27 重要文化財 関ヶ原合戦図屏風 八曲一双（大阪歴史博物館蔵）
- 28 重要文化財 大坂夏の陣図屏風 六曲一双（大阪城天守閣蔵）
- 29 長篠合戦図屏風 六曲一隻（名古屋市博物館蔵）
- 30 賤ヶ岳合戦図屏風 六曲一双（大阪城天守閣蔵）
- 31 川中島合戦図屏風 六曲一双（和歌山県立博物館蔵）
- 32 長篠長久手合戦図屏風 六曲一双（犬山城白帝文庫蔵）
- 33 長篠長久手合戦図屏風 六曲一双（徳川美術館蔵）
- 34 小牧長久手合戦図屏風 六曲一隻（名古屋市博物館蔵）

- 35 長篠合戦図屏風 下絵 八幅（東京国立博物館蔵）
 36 長久手合戦図屏風 下絵 八幅（東京国立博物館蔵）
 37 山崎合戦図屏風 六曲一双（大阪城天守閣蔵）
 38 関ヶ原合戦図屏風 六曲一隻（岐阜市歴史博物館蔵）

作品解説 薄田大輔・鈴木 彰 図録編掲載作品リスト

論考編

【総論】合戦図における絵画表現の深化と多様化 薄田大輔

【描かれた中世のいくさ】

源平合戦絵の展開 十七世紀を中心に 出口久徳

今治市河野美術館所蔵「源平合戦図屏風」について 龍澤 彩

河野本「源平合戦図屏風」に描かれた『平家物語』 「一の谷合戦」における忠度・通盛・教経を中心に 小助川元太

立教大学図書館蔵「平家物語・平治物語扇面画帖」について 鈴木 彰

馬の博物館蔵画帖にみる『保元物語』『平治物語』の二段階の享受と構成 滝澤みか

版本『太平記』挿絵考序説 「吉野城軍事」「千剣破城軍事」の事例から 森田貴之

【華ひらく戦国合戦図】

戦国合戦図屏風と軍記・合戦図 長篠合戦図屏風を例に 井上泰至

「長篠合戦図屏風」の展開 「東京国立博物館所蔵下絵」にみる武勇の絵画化 小口康仁

小牧長久手合戦図屏風と戦国軍記 松浦由起

『川角太閤記』と『太閤記』 「賤ヶ岳合戦図屏風」への展開 湯浅佳子

屏風になった『絵本太閤記』 竹内洪介

あとがき 薄田大輔

（３）今治市河野美術館 文化講演会 テーマ「源平合戦図屏風を読み解く」（日時：2021年1月9日（土）13時30分～14時30分）分担者小助川元太氏により調査の成果を市民に講演し、分担者龍澤彩、鈴木彰の作成したリーフレット（源平合戦図屏風を読み解いたもの）を配布した。本来は、全員が講演に参加する予定だったが、コロナ禍で見合わせざるをえなかった。

（４）永青文庫の調査を経て奈良絵本『太平記』解説書を勉誠社より2021年度出版。

永青文庫所蔵『絵入太平記』は、軍記物語『太平記』全40巻および「剣巻」1巻の各巻を二冊ずつに分けた全83冊（うち目録1冊）の奈良絵本である。

『太平記』の奈良絵本として最大のものであり、さらには各冊に10枚前後の挿絵があり、全体で800枚近い挿絵点数を誇る。

奈良絵本として最多であるのみならず、『太平記』のほとんどの章段について挿絵を持っており、『太平記』享受史においても類をみない規模の絵画資料である。

本書では、これまで未公開であった本書の稠密極彩色の美しい挿絵の全点をフルカラー影印し公開。研究篇では、『太平記』の格段の梗概および挿絵の解説、主要版本との挿絵の対比を示した表を収載、さらには永青文庫蔵『絵入太平記』の歴史的な位置づけを考察した解題を収めた。

永青文庫の奈良絵本『太平記』は、これまで収集したものの中でもっとも絵の多い本であり、今後、この資料を基礎として、江戸時代の諸藩の文物に大きな影響を与えた『太平記』の文化的な位置づけを行っていくことができるものである。

（５）その他、東海近世文学会七月オンライン例会（第299回）「國學院大學本「異代同戯図」（狩野昌運筆）を読み解くー見世物、博奕、黄檗からー（オンライン2021年7月31日（土））で応募者が発表対象とした國學院大學本「異代同戯図」と同内容の徳川美術館所蔵「化物絵」が大家の文物であることから、その分析を行った。上記の発表において、徳川美術館所蔵「化物絵」の全体像は把握しており、黄檗宗と絵師、大家との関連、『徒然草』との関連について等、本絵巻の作成の背景にあるものについての考察を行った。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計14件（うち査読付論文 7件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 4件）

1. 著者名 中根千絵	4. 巻 13
2. 論文標題 彦根城博物館所蔵『今昔物語』巻十九の本文の位置づけ	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 愛知県立大学日本文化学部論集	6. 最初と最後の頁 31 110
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.15088/00004844	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 龍澤彩	4. 巻 0
2. 論文標題 源氏絵を読む 宇治市源氏物語ミュージアム所蔵「源氏絵鑑帖」を例に	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 宇治市源氏物語ミュージアム編『光源氏に迫る 源氏物語の歴史と文化』	6. 最初と最後の頁 171 193
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 （共著）朴知恵・鈴木彰	4. 巻 21
2. 論文標題 立教大学図書館蔵『平家物語』翻刻（二）巻第四～巻第六	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 立教大学大学院日本文学論叢	6. 最初と最後の頁 17 85
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.14992/00021183	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 中根千絵	4. 巻 12
2. 論文標題 彦根城博物館所蔵『今昔物語』巻十七の本文の位置づけ	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 愛知県立大学日本文化学部論集	6. 最初と最後の頁 1 40
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.15088/00004492	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 中根千絵	4. 巻 68
2. 論文標題 『八幡愚童訓』甲本の享受：和氣清丸譚を中心に	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 伝承文学研究	6. 最初と最後の頁 25 35
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中根千絵	4. 巻 11
2. 論文標題 彦根城博物館所蔵『今昔物語』巻十六の本文の位置づけ	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 愛知県立大学日本文化学部論集	6. 最初と最後の頁 79 115
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15088/00004276	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 小助川元太	4. 巻 68
2. 論文標題 甲類系『八幡愚童訓』諸本の異同から見えるもの：承久の乱関係記事の比較を中心に	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 伝承文学研究	6. 最初と最後の頁 14 24
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小助川元太	4. 巻 69
2. 論文標題 (講演)異本で読む『平家物語』：木曾の最期	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 愛媛国文研究	6. 最初と最後の頁 7 17
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 鈴木彰	4. 巻 67
2. 論文標題 短篇物語集としての流布本『義経記』	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 武蔵野文学	6. 最初と最後の頁 26 29
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中根千絵	4. 巻 53
2. 論文標題 中世近世移行期における尾張藩八幡再興の<物語>	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 説話文学研究	6. 最初と最後の頁 47 - 56
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小助川元太	4. 巻 53
2. 論文標題 湯月八幡宮の再興と武の物語	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 説話文学研究	6. 最初と最後の頁 57 - 66
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 龍澤彩	4. 巻 53
2. 論文標題 尾張徳川家の大名道具に見る八幡信仰 家祖尊崇との関わりから	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 説話文学研究	6. 最初と最後の頁 36 - 47
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 鈴木彰	4. 巻 53
2. 論文標題 大名家の歴史意識と八幡宮・八幡縁起－萩藩毛利家の事例から	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 説話文学研究	6. 最初と最後の頁 67 - 73
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中根千絵	4. 巻 53
2. 論文標題 「医事説話」研究が<拓く>世界」趣意と報告	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 説話文学	6. 最初と最後の頁 74 - 77
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計10件（うち招待講演 4件 / うち国際学会 4件）

1. 発表者名 中根千絵
2. 発表標題 國學院大學本「異代同戯図」（狩野昌運筆）を読み解く－見世物、博奕、黄檗から－
3. 学会等名 東海近世文学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 中根千絵
2. 発表標題 The Art of Retelling the Battles of Old: A Case Study from Owari Domain
3. 学会等名 第16回EASJS学会（国際学会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 小助川元太
2. 発表標題 Writing and Remembrance in the "oboegaki" Genre : Battle Accounts, Literary Techniques, and the Reimagining of War Tales
3. 学会等名 第16回EAJS学会 (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 鈴木彰
2. 発表標題 Transmitting the Voices from the Battlefield: New Perspectives on "oboegaki" as Literary Culture
3. 学会等名 第16回EAJS学会 (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 龍澤彩
2. 発表標題 江戸時代に制作された古絵巻模本について 「酒吞童子絵巻」(フリーア美術館所蔵)の制作背景に関する試論
3. 学会等名 徳川美術館講演会「大名の生活と文化」(招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 小助川元太
2. 発表標題 絵画で読み解く平家物語「源平合戦図に描かれた『平家物語』」
3. 学会等名 今治市河野美術館第14回文化講演会 (招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 小助川元太
2. 発表標題 『あい囊鈔』の『太平記』利用
3. 学会等名 唱導研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 小助川元太
2. 発表標題 『あい囊鈔』と『三国伝記』
3. 学会等名 応永・永享期文化論研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 中根千絵
2. 発表標題 八幡をめぐる物語の享受 17世紀を中心にー
3. 学会等名 承文学研究会平成三〇年度大会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 鈴木彰
2. 発表標題 薩摩島津家と「兵法秘術一卷書」 兵法書から武家家伝へ
3. 学会等名 2018年度暨南大学日本語文化研究所国際シンポジウム（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計13件

1. 著者名 中根千絵・二本松康宏編	4. 発行年 2021年
2. 出版社 三弥井書店	5. 総ページ数 219
3. 書名 城郭の怪異	

1. 著者名 中根千絵・薄田大輔編	4. 発行年 2021年
2. 出版社 勉誠出版	5. 総ページ数 416
3. 書名 合戦図 描かれた武	

1. 著者名 中根千絵・森田貴之編	4. 発行年 2022年
2. 出版社 勉誠出版	5. 総ページ数 656
3. 書名 奈良絵本「太平記」の世界(全2巻) 永青文庫所蔵「絵入太平記」全挿絵影印ならびに研究	

1. 著者名 中根千絵(日比嘉高編)	4. 発行年 2021年
2. 出版社 三弥井書店	5. 総ページ数 247
3. 書名 「中世説話の「心」をもつ病 『今昔物語集を中心に』 pp155. ~ 183 (『疫病と日本文学』	

1. 著者名 小助川元太・橋本正俊編	4. 発行年 2021年
2. 出版社 勉誠出版	5. 総ページ数 240
3. 書名 室町前期の文化・社会・宗教 『三国伝記』を読みとく	

1. 著者名 小助川元太（中根千絵・薄田大輔編）	4. 発行年 2021年
2. 出版社 勉誠出版	5. 総ページ数 219
3. 書名 「河野本「源平合戦図屏風」に描かれた『平家物語』 「一の谷合戦」における忠度・通盛・教経を中心に」 『合戦図 描かれた 武 』	

1. 著者名 龍澤彩（中根千絵・薄田大輔編）	4. 発行年 2021年
2. 出版社 勉誠出版	5. 総ページ数 219
3. 書名 今治市河野美術館所蔵「源平合戦図屏風について」 『合戦図 描かれた<武>』	

1. 著者名 鈴木彰（中根千絵・薄田大輔編）	4. 発行年 2021年
2. 出版社 勉誠出版	5. 総ページ数 219
3. 書名 鈴木彰「立教大学図書館蔵「平家物語・平治物語扇面画帖」について」 『合戦図 描かれた 武(もののふ) 』	

1. 著者名 中根千絵他	4. 発行年 2020年
2. 出版社 三弥井書店	5. 総ページ数 192
3. 書名 昔物語治聞集	

1. 著者名 龍澤彩（小林健二編・他11名共著）	4. 発行年 2020年
2. 出版社 三弥井書店	5. 総ページ数 213
3. 書名 『絵解く 戦国の芸能と絵画―描かれた語り物の世界―』掲載の論文「江戸時代前期の平家物語図扇面について 海の見える杜美術館所蔵「平家物語扇面画帖」を中心に―」	

1. 著者名 鈴木彰（小林健二編・他11名共著）	4. 発行年 2020年
2. 出版社 三弥井書店	5. 総ページ数 213
3. 書名 『絵解く 戦国の芸能と絵画―描かれた語り物の世界―』掲載の論文「海の見える杜美術館蔵「平家物語扇面画帖」について 場面解釈と本文離れをめぐる検討」	

1. 著者名 小助川元太（松尾葦江編）	4. 発行年 2019年
2. 出版社 花鳥社	5. 総ページ数 292
3. 書名 『軍記物語講座 第三巻 平和の世は来るか 太平記』掲載論文「類書・注釈書と『太平記』の関係 『あい囊鈔』の『太平記』利用」	

1. 著者名 小助川元太 (福田晃・中前正志編)	4. 発行年 2019年
2. 出版社 三弥井書店	5. 総ページ数 295
3. 書名 『唱導文学研究第十二集』掲載論文「『あい囊鈔』の 神護寺縁起 「我邦八神国トシテ、王種未タ他氏ヲ雑エズ」」	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	龍澤 彩 (RYUSAWA Aya) (00342676)	金城学院大学・文学部・教授 (33905)	
研究分担者	小助川 元太 (KOSUKEGAWA Ganta) (30353311)	愛媛大学・教育学部・教授 (16301)	
研究分担者	鈴木 彰 (SUZUKI Akira) (40287941)	立教大学・文学部・教授 (32686)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------